

組織的な学校運営に関する実践研究

1 事業の実施報告

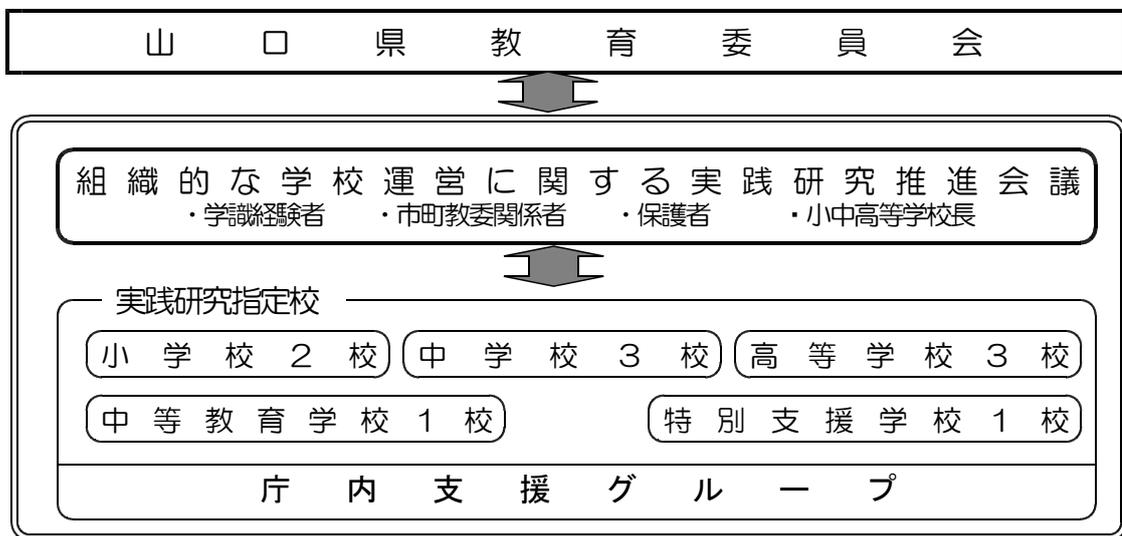
(1) 実践研究のねらい

学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、教員が子どもと向き合う時間を確保し、質の高い教育活動を展開していくことが重要な課題である。

本実践研究は、学校運営をより組織的・機動的に推進していくために、学校の内外環境要因を分析し、現状組織の長所を生かしながら、組織的な学校運営体制の改善をねらいとして行うものである。

本実践研究の推進にあたり、実践研究推進会議、実践研究指定校、庁内支援グループの3つの組織が連携して研究を行うこととした。

<研究組織>



ア 実践研究推進会議

学校運営組織の改善に向け、実践研究指定校における取組の方向付けを行うとともに、その成果を踏まえ、学校運営の改善に向けた方策について、協議・検討を行う。

イ 実践研究指定校

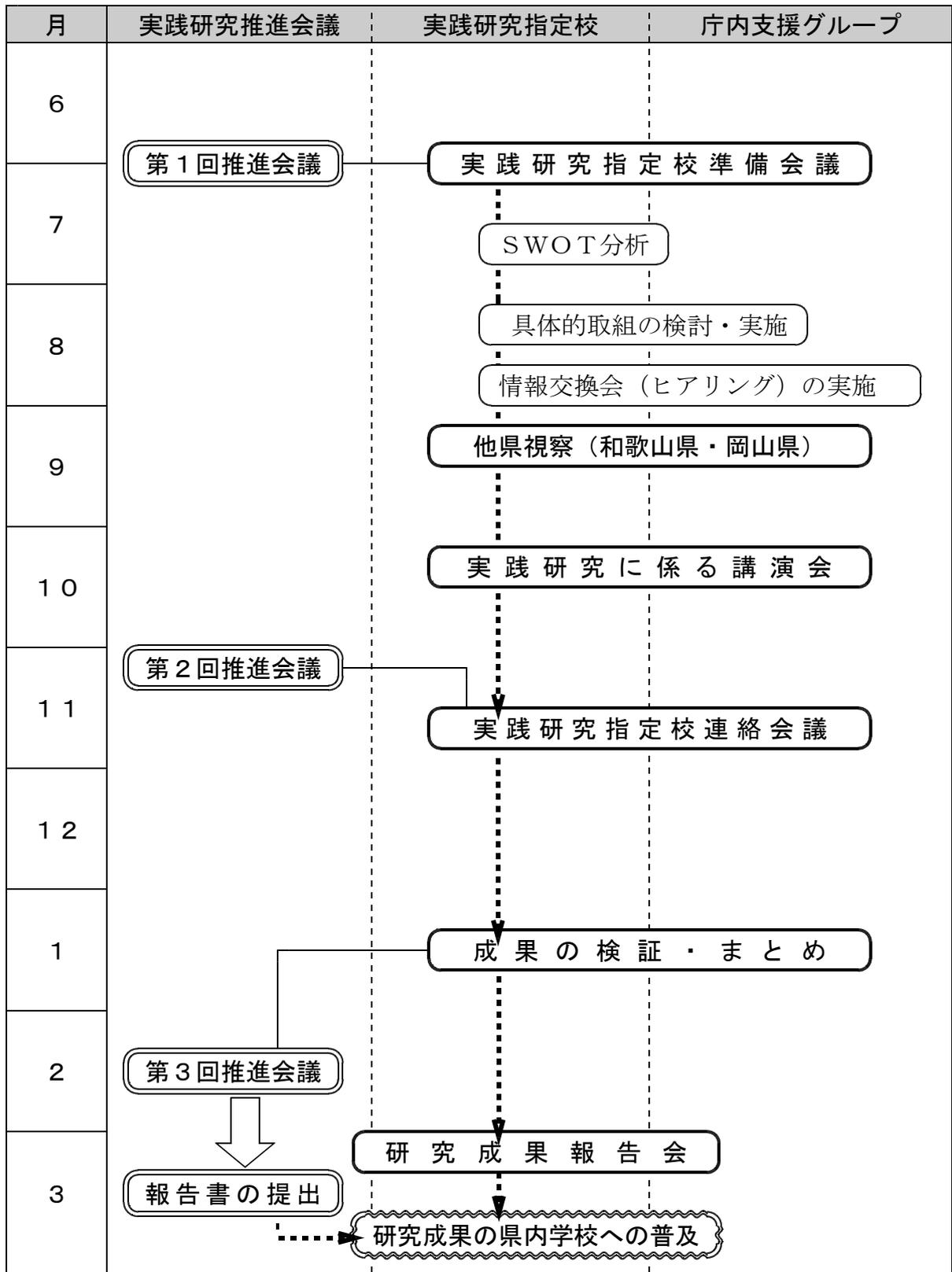
学校運営組織を内部・外部環境の面から分析し、その改善に向けた具体的取組を実践し、その効果を検証する。

ウ 庁内支援グループ

実践研究指定校における具体的取組に対して支援を行うとともに、県全体の学校の組織力向上に向けた取組の検討・実施を行う。

(2) 実践研究の実施状況

ア 実践研究全体の経過



イ 実践研究指定校における実践研究の実施状況

SWOT分析を全ての実践研究で実施し、各校の現状把握と共通理解に基づいた学校の組織改善を行うための取組を実施し、その効果を検証した。

(ア) 岩国市立麻里布小学校

- ・ 複数教頭の位置付け・役割分担の見直し
- ・ 事務職員の職務内容の見直し
- ・ コンピュータを活用した校務分掌資料や研修資料の集中管理
- ・ 地域等との連携による授業研究や安全教育の推進

(イ) 山口市立良城小学校

- ・ 中堅教員のリーダー意識の高揚と資質の向上を図る取組
- ・ 事務の共同実施の効果的運用
- ・ ICTを活用した児童理解の推進
- ・ 幼稚園や保育所との連携の強化

(ウ) 光市立浅江中学校

- ・ プロジェクト方式の効果の検証
- ・ 企画調整部の設置効果の検証
- ・ 校務の情報化による質の改善とゆとりの創出
- ・ コミュニティ・スクール推進事業を支える組織づくり
- ・ 地域と連携した生徒育成

(エ) 防府市立桑山中学校

- ・ 3グループ・7プロジェクトチーム体制による校務分掌運営の推進
- ・ 職員室LANによる事務の効率化、指導技術の共有
- ・ 情報伝達の効率化・共有化
- ・ 地区学校連絡協議会や養護教諭連絡会の開催による他校との連携

(オ) 美祢市立大嶺中学校

- ・ 学年主任を主軸とした組織化された学校運営体制の構築
- ・ ICT活用による情報共有
- ・ 地域行事へのボランティア参加の促進
- ・ コミュニティ・スクールや学校評価を学校運営に生かす工夫

(カ) 山口県立岩国高等学校

- ・ 教頭による本・分校の校務分掌の横割り担当制の実施
- ・ 教科チーフや学年チーフの設置等による円滑な課題解決のための大規模校における組織づくり
- ・ 本校と分校の校務分掌等における連携や情報共有の推進
- ・ 保護者との連携強化と地域人材やOBを活用する体制の構築

(キ) 山口県立山口高等学校

- ・ 教頭の役割分担の明確化と連携の強化のための取組
- ・ 本・分校における校務分掌の一体的遂行
- ・ 新たな情報伝達・共有システムの構築による情報のさらなる共有化に向けた工夫
- ・ 教職員研修等での地域人材の活用等、地域の多様な教育力の活用

(ク) 山口県立豊浦高等学校

- ・ 教頭 1 人配置校における教頭と各主任の役割分担の見直し
- ・ タスクフォース方式の導入による学校課題への対応
- ・ 校内LANを活用した校務分掌の効率的実施
- ・ 同地区内の高校や諸機関との連携による生徒指導の充実

(ケ) 山口県立下関中等教育学校

- ・ 「中等教育学校推進課」の設置による特色ある学校づくりのための取組の担当一元化
- ・ 前期課程と後期課程の情報継承・情報共有の在り方についての工夫
- ・ スクールカウンセラー、就職支援専門員の活用

(コ) 山口県立下関南総合支援学校

- ・ ミドルリーダーの育成を図る組織的取組
- ・ ICTを活用した情報共有、業務改善
- ・ 外部人材の学校ボランティアへの活用

2 実践研究の成果

学校運営をより組織的・機動的に推進するためには、学校の現状を把握し、教職員の共通認識のもと、学校運営改善に向けた目標を設定することが重要である。

SWOT分析の実施は、学校教育目標や重点取組事項の共有化に有効であるとともに、教職員の学校運営に対する参画意識を向上させることにつながる。

また、学校運営を改善するためには、「組織力の強化」「ICT活用等による情報共有」「地域等との連携」の3つの視点から取り組むことが有効である。

(1) 組織力の強化

学校の組織力の強化を図るためには、管理職のリーダーシップをより一層高めること、OJT等を通して教職員の資質能力を向上させること、事務職員が学校運営に参画する体制を強化すること、分掌の見直しやスリム化等を行うことが重要である。

(2) ICT活用等による情報共有

児童生徒等の情報を一元的に蓄積し、共有することなど、ICTの活用を促進することが効果的である。ICT活用を一層推進するなどの校務の情報化を図ることは、校務全体を効率化し、きめ細やかな指導や負担軽減に必要である。

(3) 地域等との連携

家庭や地域社会への時宜を得た情報提供、コミュニティ・スクールや異校種間連携の取組等は、家庭や地域の学校に対する信頼を高め、学校組織の活性化につながる。

3 今後の取組予定

(1) 実践研究指定校の取組と成果を県内の学校に普及し、県全体の学校の組織力の向上、学校業務の改善を図る。

(2) 実践研究推進会議の提言を踏まえて、学校運営の改善のための方策を検討し、実施する。

ア 組織力の強化

- ・ 学校の現状把握や学校教育目標の共通認識に有効であるSWOT分析について、県内学校に周知するとともに、その実施を促進する。
- ・ 管理職やミドルリーダーの育成、資質向上について、県の取組方針を明確にするるとともに、学校現場での育成の強化を図る。

イ ICTの活用：校務の情報化の推進

文書や成績処理等の標準様式の作成、県内の学校におけるICT化に係る取組事例の集約や効果的な取組の周知等、ICTを活用した校務全体の効率化・改善に向けた取組を行うとともに、ICT化による校務分掌等の見直しなど、校務の情報化に向けた検討を行う。

ウ 地域等との連携

各学校での取組の強化を図るとともに、県教委として地域のカやスクールカウンセラー等、専門的知識や技能を有する人たちの力を学校教育の現場で生かしていける体制の強化をさらに進める。

○山口県における学校運営の改善方策について（平成23年3月）

はじめに

1 学校組織の現状と課題

- (1) 学校組織の特徴
- (2) 学校組織の課題

2 学校運営の改善・充実の視点

- (1) 組織力の強化
- (2) ICT活用等による情報共有
- (3) 地域等との連携

3 学校組織の改善・充実に向けた取組

(1) 組織力の強化

- ア 管理職のリーダーシップ
- イ 教職員の資質能力の向上（OJTの充実）
- ウ 学校教育目標の共通認識（SWOT分析の活用）
- エ 事務職員の学校運営への参画体制の強化
- オ 校務分掌の見直し

(2) ICT活用等による情報共有

- ア 情報の蓄積・共有化
- イ 情報伝達の効率化

(3) 地域等との連携

- ア 家庭や地域社会との連携の強化
- イ コミュニティ・スクールの推進
- ウ 異校種間の連携強化
- エ 外部人材の活用

4 実践研究を終えて

[参考資料]

- 資料1 組織的な学校運営に関する実践研究実施要項
- 資料2 組織的な学校運営に関する実践研究推進会議設置要綱
- 資料3 実戦研究指定校取組のまとめ
- 資料4 実践研究指定校報告書
- 資料5 他県視察（和歌山県、岡山県）
- 資料6 講演会
- 資料7 組織的な学校運営に関する実践研究推進会議の協議の経過

(参照) 「山口県における学校運営の改善方策について」

組織的な学校運営に関する実践研究推進会議報告

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50200/sosiki-power/kaizenhousaku23.html>